

第1回 長岡版広域道路ビジョン懇談会 議 事 録

■日 時：平成30年8月7日（火） 15:00～17:00

■場 所：アオーレ長岡 4階大会議室

■議事次第

1. 開 会
2. 挨拶
3. 懇談会設置の目的、設置要領
4. 委員の紹介
5. 議 事
 - (1) 進め方とスケジュール
 - (2) 広域道路ビジョン
 - ①現状と課題
 - ②都市構造
 - ③議論の視点
6. 閉 会

※懇談会資料は別紙のとおり

■懇談会の様子



■委員発言概要

①現状と課題

【委員】

- ・柏崎市では1,000人/年の人口減の状況。
- ・社会減を止めるためには、特に高校生の地域外流出の抑止が重要であり、地域内にも働き場があることをPRすることが必要と考えている。
- ・定住人口増に向けては、H25年よりシティセールスを実施してきており、H30年3月には「柏崎市移住・定住推進行動計画」（5か年計画）を策定した。
- ・現在、ファンクラブの会員が4300人、内、市外が800人。

【委員】

- ・人口減の対応として、増えた高齢者を活用することも視野に入れることも必要と考えている。

【委員】

- ・人口減の抑制には、「地域の魅力」が必要。地元が気付かない魅力がある。
- ・以前、来訪者から長岡の魅力について聞いたところ「子育て環境が良い（雪、食、東京にも近い）」との意見あり。
- ・米百俵の文化があり、大学をはじめ学校が充実している。
- ・長岡野菜等の「食」を魅力として加えた方が良い。
- ・インバウンド観光については、「日本農家の生活体験」「農の景観（棚田、錦鯉）」等が求められている。
- ・道路については、昔、「国道352号は日光までつながっている」と聞いたとき感心した。海にも繋がって欲しい。このようなロマンを感じる事が重要。
- ・地域にとっては、雪でも通行止めにならない道路（動線）が必要。

【委員】

- ・魚沼市では5～600人/年の人口減の状況。
- ・外国人定住者も増やしていくようなことが必要。

【委員】

- ・「高齢者が住みやすい地域づくり」を進め、そこで働く若年層を増やすといった観点からの取組もあると考えている。
- ・東京への流出（あこがれ）は、「地元の良さを知らない」ことも理由と想定され、地域を知る教育を進める必要がある。

【委員】

- ・長岡では今「てくてく」や「ぐんぐん」ができて、女性が子育て環境向上に頑張っている。
- ・長岡には大学が多い。
- ・長岡造形大学は、公立化して生徒出身地の県内県外割合が逆転した。（現在7～8割が県外）

②都市構造

【委員】

- ・長岡市は、比較的道路網が良い。しかし、中越地震の時のようにガソリンスタンドに燃料供給するにも、柏崎から武石トンネルを経由してアクセスに苦労した経験があり、災害時の迂回路確保に心

配がある。

- ・逆に、道路が良くなると素通りされる可能性もある。長岡地域には高速道路等は通っているが、通過点であって観光客が停まってくれない。

【委員】

- ・関東出身者は積雪路での運転経験が少なく、運転するのが怖いと言っており、このようなイメージを払しょくするような安心して運転できる道路整備が必要。

【委員】

- ・日東道が完成すると新潟の高速道路ネットワークはほぼ出来上がることになるが、高速道路間の空白地帯（エアポケット）が存在し（磐越道と日沿道の間や、十日町には高速がなく長岡へのアクセスも弱い、小千谷から柏崎に行くときに冬は怖い、磐越道と関越道の間のみ見川沿いなど）、災害対応、緊急医療対応の面でも、高速道路間を結ぶ道路ネットワークが必要。
- ・関東や東海・東南海の大規模地震を想定した際、新潟地方（中でも長岡）のバックアップとしての位置づけは、とても重要。その際にも、高速を迂回するためのもう少し細かい道路ネットワークを充実しておくことが必要と考える。
- ・このように、地域内の災害対応に加え、長岡地域は地域外（地方外）の災害対応としても必要とされる地域になれるのではないかと思う。
- ・インバウンドも最近は思いもよらないところに行くので、そのために、長岡を中心に小千谷・柏崎・魚沼・十日町あたりまでネットワークを広げることが必要。

③議論の視点

【委員】

- ・長岡の売り物の一つである長岡花火では、例えば会場近くに何百台も停まれる駐車場をつくり、長距離歩かなくても花火会場に行けるような対応も必要。
- ・八十里越で、長岡が栃尾を経由して会津地方とつながっていくことは重要。

【委員】

- ・安全安心の観点から、道路の除雪対応に懸念がある。
- ・地域としては柏崎原発を抱えており、避難道路の整備は進めてほしい。

【委員】

- ・「冬に止まらない道路」が必要。
- ・仕事は在宅でする時代が来る。それを見据えた環境整備も必要。
- ・循環型農業の畜産はどうしても郊外になるが、都心との交通確保が必要。

【委員】

- ・2年ほど前スキーの皆川賢太郎氏と話す機会があり、湯沢に11月から3月末までの季節雇用で3,000人雇用する人を、人手の足りない農村地域や大規模化あるいは法人化している農業と連携できないか考えたことがあった。実現できればと考える。
- ・時給の問題もあってJAで職員募集しても応募者がいない。雇用の場が必要。

【委員】

- ・福祉関連のNPO団体数「新潟260」「上越198」「長岡77」である。上越は富山と繋がっている。長岡は県外に出ていく人が多いのだと思う。医療関連でも会津につながる道路があれば状況は変わる

かも知れない。

- ・インバウンドについては、ゴールデンルートの観光とは異なり、長岡ではムスリムが合っており、「安心して食べられる」とか「知り合いのところに泊まる」等が必要。
- ・会津地方とのつながりについては、栃尾の鉄砲隊が会津に教えを乞うため通っており、つながりがある。

【委員】

- ・長岡地域では米粉（アレルギー対応食品）があり、災害時の食物アレルギーの人たちの食べ物供給の観点も重要。関東にも供給できると良い。

【委員】

- ・若者の流出を食い止めるための優先順位や、地域の魅力の活用方法を見極める必要がある。

【委員】

- ・只見線が近々再オープンする予定。4往復/日しかないが、観光用としても期待している。
- ・福島、柏崎の原発に何かあったときの避難路として国道8号・17号だけでなく、国道252号は通年して（冬季でも）通れるようにしておく必要がある。

【委員】

- ・若者をひきつける（集める）ためにはロマンを感じさせる仕掛けが必要。
- ・観光面では広域周遊ルートのようなビジョンが必要。今後はゴールデンルートだけでは受け止めきれない。新潟は、ヨーロッパで人気が高まっているアグリツーリズムのようなものが良い。

【委員】

- ・観光については、「長岡に来なければ食べられない（経験できない）」等の打ち出しが良い。
- ・もともと酒は有名だが「味噌」「醤油」「スイカ」「豆」等も売りになっても良い。
- ・いろんな体験をするために観光客等に来ていただいた際、フットワーク軽く移動できるための道路ネットワークの充実が必要。
- ・個人旅行者をキャッチして、SNSで発信してもらおう工夫が必要。
- ・十日町（約800平方キロの広大なエリア）でトリエンナーレを開催しているが、作品を巡るための道路ネットワークを作ることも必要。
- ・地域住民にも、訪れる人にも動きやすくなる骨太の計画が重要。
- ・昇竜道は中国からの団体客をターゲットにして旅行者を増やしており、参考になる。

◎今後の予定

【事務局】

たくさんのご意見を頂いたので、事務局で意見を参考にしながら広域道路の方向性を整理していきたい。第2回委員会は、10月の中旬に開催予定である。具体的な開催日時は、改めて連絡させていただく。

以上